

登米市立病院改革プランの実施状況・評価

平成22年8月

登米市立病院等運営協議会

目 次

「登米市立病院改革プラン」実施状況の評価にあたって・・・・・・・・・・・・・・・・	1
（登米市立病院等運営協議会長 佐藤安宏）	
1. 経営の効率化	
・取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・	2
・財務内容改善に係る数値目標・・・・・・・・・・・・・・・・	4
・公立病院として提供すべき医療の確保に係る数値目標・・・・・・・・	5
・収支計画と決算の状況・・・・・・・・・・・・・・・・	6
・定員管理に関する計画及び実績・・・・・・・・・・・・・・・・	13
【評価】・・・・・・・・・・・・・・・・	13
【今後改善を望む事項】・・・・・・・・・・・・・・・・	13
2. 再編・ネットワーク化	
・取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・	14
【評価】・・・・・・・・・・・・・・・・	14
【今後改善を望む事項】・・・・・・・・・・・・・・・・	14
3. 経営形態等の見直し	
・取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・	15
【評価】・・・・・・・・・・・・・・・・	15
【今後改善を望む事項】・・・・・・・・・・・・・・・・	15
4. 総合的な所見	
（1）期待される地域医療の役割を果たしているか・・・・・・・・	16
（2）総合的に積極的に経営改善に取り組んでいたか・・・・・・・・	16
（3）その他改革プランに対する総合的な所見・・・・・・・・	16
登米市立病院等運営協議会委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・	17

「登米市立病院改革プラン」実施状況の評価にあたって

昨年に続き、病院改革プランの実施状況と、その評価について本協議会に求められ、それぞれの意見を13ページから16ページに述べております。

この評価項目は、総務省が各公立病院において改革プランに沿った内容で改革が実施されているか、その状況を把握するためのものです。登米市立病院の改革プランでは病院経営の効率化を図るうえから病院の再編や機能分化、また、収入増を図るための在宅医療等の充実を掲げておりますが、帰るところ改革プランの原点は、①収支バランスのとれた経営の健全化 ②産科・小児科に代表される医師の確保 ③佐沼病院を中核的病院としていかに機能させるか ④佐沼病院の機能充実のための市立病院間、開業医との連携等が主題であったと思います。

①の経営の健全化には、総務省が求めた項目以外に、昨年度の本稿で述べましたように、経営の健全化に欠かすことのできない項目に沿って点検し、なぜ赤字になるのかの分析が必要であることを強調してきました。累積赤字が増大している現状は、赤字原因の把握や、認識の甘さからくる改革の対処の仕方に問題があると思います。例えば、医業収入と比した人件費の抑制。医師、コ・メディカル職員の配置替え等、関係幹部において、権限の行使もなく断行できない状況に終始している現状においてはなおさらのことと思います。

②の医師の確保ですが、本協議会や議会での答弁では医師の招聘は各方面に働きかけ努力していることを強調しておりますが、平成18年度より4人の医師が減っております。医師の増員は現状では望めない状況にあるのではないのでしょうか。

③の佐沼病院の機能につきましても、医師の招聘がままならない現状では、中核的病院の機能どころか市医療局が提唱している救急医療体制の充実にも、医師の補充ができない状況が長引けば、市民に過度の期待をもたせるだけになってしまうのではないのでしょうか。

④の市立病院間の連携や開業医の方々との連携につきましても、病院側からの医師会や開業医に対しての働きかけや、常日頃の病・病、病・診連携が良好に機能するよう努力しない限り難しいのではないのでしょうか。紙面の関係から私なりの主題とする4点について端的に述べました。病院側もそれなりに努力しているとは思いますが、合併直前(平成16年度)から比して平成21年度末の累積赤字額は49億8千万円増の103億円に膨張している現状をどう考えるのでしょうか。

病院経営の健全化は、収支のバランスを始めとし、医師の招聘、院内の人事、連携する医師の人間関係、諸経費のコストダウン、病床稼働率向上等改革・改善に向けたあらゆる項目を職員に徹底するための研修、関係機関の連携等々考えられる諸課題に躊躇することなく果敢に取り組んでこそ成しえるものだと思います。幸いにして「登米市立病院等経営形態のあり方懇話会」が平成22年6月から開催され、9月2日に結論が得られるとのことですが、遅きに失した感もあります。平成21～23年度の3年間に一般会計からの繰入が約69億円必要とし、その結果、平成23年度末の累積赤字は病院側の見込みでは106億円になる現状においては、一日も早く地方独立行政法人等への移行に向けた努力をし、債務をこれ以上大きくしないことを望みます。経営形態が変わった場合、膨大な債務残は市民の長期の税金で賄うことになると思います。この原因はどこに問題があったのか執行権・議決権のある方々に厳しく検証していただく必要があるのではないのでしょうか。また、経営形態がどう変わろうと、経営の責任者はその任に十分耐え得る人物でなければならぬことは言うまでもありません。関係各位のご賢察をお願い申し上げます。

平成22年8月

登米市立病院等運営協議会
会長 佐藤安宏

1. 経営の効率化

<取組状況>

病院改革プランで設定した数値目標達成に向けた具体的な取り組みのうち、平成21年度までに取り組んだ内容については次のとおり。(注：●は平成20年度、○は平成21年度追加・変更)

項目	取組み内容	効果	今後の取り組み・課題等
地方公営企業法全部適用	●平成20年4月に一部適用から全部適用に移行し、病院事業管理者を設置	●運営の機動性の向上	●経営形態の見直しと合わせて全部適用継続の可否について検討する
入院基本料の見直し	●平成20年10月から米谷病院において、平均在院日数の短縮等により、13対1入院基本料(1,092点)から10対1(1,300点)へ上げた	●点数差 208点(2,080円) ●平成20年10月から3月入院患者数 7,885人 ●効果額 2,080円×7,885人 =16,400千円	●平均在院日数の短縮に努め、現在の入院基本料を維持する
未収金の徴収	●徴収嘱託員による徴収 1名配置	●平成20年度未収金 期首残高 91,856千円 収納額 43,742千円 (うち、嘱託員7,537千円) ○平成21年度未収金 期首残高 93,050千円 収納額 45,799千円 (うち、嘱託員5,638千円)	●未収金の発生防止に努めるとともに、徴収の強化を図る
院外処方の実施	●平成20年4月から佐沼病院、豊里病院において、院外処方を開始した	●平成20年度院外処方率 佐沼病院 65.4% 豊里病院 93.8% ○平成21年度院外処方率 佐沼病院 67.7% 豊里病院 98.0%	●実施率の向上対策 ●薬剤師の有効活用を図り、薬剤管理指導料の増収に努める ○米谷病院、よねやま病院、登米診療所における院外処方の実施
在宅療養支援診療所化	●平成20年12月から登米診療所において、在宅療養支援診療所化 ●実際の患者獲得は平成21年2月から	●訪問診療収入比較(月平均) 前:586,055円(4月~1月) 後:964,395円(2月~3月)	●平成23年度体制に向けての体制整備
施設基準の見直し	○平成21年10月より米谷病院で検体検査管理料(Ⅱ)を取得 ○平成22年2月より佐沼病院で脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)を取得	○検体検査管理料(Ⅱ) 260千円 ○脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ) 781千円	
日曜診療の実施	○平成21年8月より登米診療所で日曜診療を開始	○患者数 1,120人 ○診療収入 12,265千円	
給食の業務委託	●平成20年4月から佐沼病院の給食業務を全面業者委託とした	●業務委託費87,126千円(給食材料費込み) ●材料費 36,824千円の削減 ●調理師等の配置換え 人件費87,024千円の削減	●給食関連収入との比較 ●材料費等高騰時の対応

医学生奨学金制度による貸付	●平成 19 年度から市独自の奨学金制度を開始	●平成 19 年度 2 名 ●平成 20 年度 3 名 ○平成 21 年度 6 名	○平成 22 年度 5 名
病床の削減	●平成 20 年 4 月から登米病院 (98 床) を無床診療所化	●職員数 平成 19 年度末 54 人 平成 20 年度末 19 人 ●純利益 (▲損失) 平成 19 年度▲182,622 千円 平成 20 年度▲112,274 千円	○平成 23 年度における 3 病院 4 診療所体制に向けての体制整備
定員管理	●退職不補充や配置換え、割愛人事により定員の適正化に努めた	●正職員人数 平成 19 年度末 554 人 平成 20 年度末 497 人 ○平成 21 年度末 478 人 ●職員給与費 平成 19 年度 5,415,668 千円 平成 20 年度 4,868,306 千円 ○平成 21 年度 4,674,129 千円	●平成 23 年度体制に向けて、勸奨退職を活用し、年度ごと定員管理を図る ○看護師の県への研修派遣による人件費の抑制 (平成 22 年度 8 人)
訪問看護の充実	●平成 20 年 12 月に佐沼病院の看護師 2 名を豊里病院に兼務発令をし、訪問看護の実践研修を開始	●平成 20 年度患者数 米谷 : 7,487 人 (6,456 人) 豊里 : 10,878 人 (7,213 人) 合計 : 18,365 人 (13,669 人) ※ () 内は平成 19 年度 ○平成 21 年度患者数 佐沼 : 1,865 人 米谷 : 8,732 人 豊里 : 12,376 人 合計 : 22,973 人	●平成 21 年 4 月から佐沼病院へサブステーションを設置し、体制強化を図る
不良債務の解消	●平成 19 年度分の不良債務を解消するため、公立病院特例債の発行	●一時借入金を長期債務に振り替えることで資金繰りの安定化	●公立病院特例債の償還が完了する平成 27 年度までに全ての不良債務を解消する

<財務内容改善に係る数値目標>

経営効率化の取り組みと効果を確認していくため、病院改革プランにおいて設定した数値目標と実績は次のとおり。

項目	H21 目標	H21 実績	差 (実績-目標)	説明	
経常収支比率	89.9	93.4	3.5	不採算部門である救急医療を確保するための一般会計負担を拡充したことなどによる。	
医業収支比率	84.1	87.9	3.8	不採算部門である救急医療を確保するための一般会計負担を拡充したことなどによる。	
職員給与費対医業収益比率	65.0	62.9	▲2.1	不採算部門である救急医療を確保するための一般会計負担の拡充、職員給与費の減少などによる。	
病床利用率	一般病床全体	60.3	61.2	0.9	
	佐沼病院	55.4	57.2	1.8	
	米谷病院	87.3	87.4	0.1	
	豊里病院	73.4	72.1	▲1.3	施設基準を確保するための退院調整による影響など
	よねやま病院	46.0	46.0	0.0	
	療養病床（豊里）	98.5	98.8	0.3	

<公立病院として提供すべき医療の確保に係る数値目標>

項目		H21 目標	H21 実績	差 (実績-目標)	説明
入院患者数(人)	全体	114,495	116,109	1,614	
	佐沼病院	60,686	62,600	1,914	
	米谷病院	15,622	15,628	6	
	豊里病院	29,284	28,979	▲305	施設基準を確保するための退院調整による影響など
	よねやま病院	8,903	8,902	▲1	
外来患者数(人)	全体	312,120	312,552	432	
	佐沼病院	117,785	115,296	▲2,489	内科の患者の減少などによる
	米谷病院	39,476	40,334	858	
	豊里病院	75,348	76,466	1,118	
	よねやま病院	36,850	37,123	273	
	登米診療所	35,314	35,701	387	
	上沼診療所	4,191	4,620	419	
	津山診療所	3,156	3,012	▲144	診療日数が減少したことによる影響
訪問看護患者数(人)	全体	21,987	22,973	986	
	佐沼病院	1,687	1,865	178	
	米谷病院	8,386	8,732	346	
	豊里病院	11,914	12,376	462	

<収支計画と決算の状況>

登米市病院事業

収益的収支

(単位:百万円、%)

区分	年度	H19年度		H20年度		H21年度		H22年度	H23年度
		決算額	計画額	決算額	計画額	決算見込額	差引	計画額	計画額
収	1. 医業収益 a	8,120	6,794	6,669	6,569	6,723	154	6,937	6,776
	(1) 料金収入	7,877	6,440	6,259	5,852	6,010	158	5,882	5,720
	入院収益	3,918	3,403	3,223	2,865	2,984	119	2,896	2,980
	外来収益	3,959	3,037	3,036	2,987	3,027	40	2,986	2,739
	(2) その他	242	354	410	717	713	△ 5	1,054	1,056
	うち他会計負担金	25	214	214	532	513	△ 19	872	872
	2. 医業外収益	462	550	553	735	731	△ 4	1,012	660
	(1) 他会計負担金	280	374	374	525	507	△ 18	804	459
	(2) 他会計補助金	130	129	129	168	182	15	161	152
	(3) 国(県)補助金	1		0	1	1		22	24
(4) その他	51	47	50	41	40	△ 1	25	24	
経常収益(A)	8,582	7,344	7,222	7,304	7,453	149	7,949	7,436	
支	1. 医業費用 b	9,632	8,461	8,094	7,807	7,651	△ 156	8,134	7,151
	(1) 職員給与と費 c	4,746	4,508	4,450	4,269	4,231	△ 38	4,124	3,865
	(2) 材料費	2,654	1,936	1,681	1,589	1,555	△ 34	1,590	1,401
	(3) 経費	1,799	1,615	1,550	1,533	1,441	△ 93	1,606	1,545
	(4) 減価償却費	415	388	396	399	401	2	404	322
	(5) その他	19	14	17	17	23	7	410	19
	2. 医業外費用	446	395	396	321	328	7	290	283
	(1) 支払利息	247	267	245	181	181	△ 0	190	191
	(2) その他	199	128	151	140	147	7	100	93
	経常費用(B)	10,078	8,856	8,491	8,128	7,979	△ 149	8,425	7,434
経常損益(A)-(B) (C)	△ 1,496	△ 1,512	△ 1,269	△ 825	△ 526	299	△ 476	1	
特別損益	1. 特別利益(D)	1			227	227	1	226	227
	2. 特別損失(E)	4	4	4	4	5	1	4	4
	特別損益(D)-(E) (F)	△ 4	△ 4	△ 4	223	222	△ 1	222	224
純損益(C)+(F)	△ 1,500	△ 1,516	△ 1,273	△ 602	△ 303	298	△ 254	225	
累積欠損金(G)	8,734	10,250	10,007	10,608	10,310	△ 298	10,862	10,638	
流動資産(ア)	1,518	1,243	1,275	1,192	1,382	190	1,198	1,165	
流動負債(イ)	3,122	2,367	2,140	2,474	2,340	△ 134	2,547	2,186	
翌年度繰越財源(ウ)									
当年度許可債で未借入又は未発行の額									
累積欠損金比率 $\frac{(G)}{a} \times 100$	107.6	150.9	150.1	161.5	153.4	△ 8.1	156.6	157.0	
医業収支比率 $\frac{a}{b} \times 100$	84.3	80.3	82.4	84.1	87.9	3.7	85.3	94.8	
健全化法施行令第16条により算定した資金の不足額 (I)	1,604	1,124	864	1,282	958	△ 325	1,348	1,020	
健全化法第22条により算定した資金不足比率 $\frac{(I)}{(K)} \times 100$	19.7	16.5	12.9	19.5	14.2	△ 5.3	19.4	15.0	

(注)・四捨五入により百万円単位で表示しているため、計数が符合しない場合がある。
 ・平成21年度見込額は、地方公営企業決算状況調査が未確定のため、数値が変動する場合がある。
 ・平成21年度見込額で医業費用の職員給与と経費の間で応援医師報酬等を調整しているため、地方公営企業決算状況調査と一致しない場合がある。

資本的収支

(単位:百万円、%)

区分	年度	H20年度		H21年度			H22年度	H23年度	
	H19年度 決算額	計画額	決算額	計画額	決算見込額	差引	計画額	計画額	
収入	1. 企業債		2,190	2,190	24	21	△ 3	598	
	2. 他会計出資金	435	300	347	665	615	△ 50	538	316
	3. 他会計負担金	6	28	28	62	62		46	55
	4. 他会計借入金								
	5. 他会計補助金					1	1		
	6. 国(県)補助金				71	10	△ 61	681	451
	7. 工事負担金								
	8. 固定資産売却代金								
	9. その他	1		1		0	0		
	収入計 (a)	442	2,518	2,566	822	710	△ 112	1,862	822
うち翌年度へ繰り越される 支出の財源充当額 (b)									
前年度同意等債で当年度借入分 (c)									
純計(a)-(b)+(c) (A)	442	2,518	2,566	822	710	△ 112	1,862	822	
支出	1. 建設改良費	127		49	449	336	△ 112	1,500	451
	2. 企業債償還金	307	886	886	536	536	△ 0	542	543
	3. 他会計長期借入金返還金								
	4. その他	6	28	28	62	62		46	55
支出計 (B)	439	915	964	1,046	934	△ 112	2,088	1,049	
差引不足額 (B)-(A) (C)	△ 3	△ 1,603	△ 1,603	224	224	0	226	227	
補てん財源	1. 損益勘定留保資金								227
	2. 利益剰余金処分量								
	3. 繰越工事資金								
	4. その他		0		224	224	0	226	
計 (D)		0		224	224	0	226	227	
補てん財源不足額 (C)-(D) (E)	△ 3	△ 1,604	△ 1,603						
当年度許可債で未借入 又は未発行の額 (F)									
実質財源不足額 (E)-(F)	△ 3	△ 1,604	△ 1,603						

(注)四捨五入により百万円単位で表示しているため、計数が符合しない場合がある。

一般会計等からの繰入金の見通し

(単位:百万円)

	H19年度	H20年度		H21年度			H22年度	H23年度
	決算額	計画額	決算額	計画額	決算見込額	差引	計画額	計画額
収益的収支	(26) 435	(104) 718	(104) 718	(92) 1,449	(92) 1,427	△ 22	(442) 2,063	(442) 1,711
資本的収支	(183) 441	(138) 328	(162) 376	(349) 727	(325) 678	(△ 24) △ 49	(270) 584	(167) 371
合計	(209) 877	(241) 1,045	(265) 1,093	(441) 2,176	(417) 2,105	(△ 24) △ 71	(712) 2,647	(609) 2,082

※下段は実繰入総額、上段は基準外繰入金(再掲)

収益の収支

(単位:百万円、%)

区分	年度	H19年度			H20年度			H21年度			H22年度		H23年度	
		決算額	計画額	決算額	計画額	決算見込額	差引	計画額	計画額					
収	1. 医業収益 a	4,235	3,607	3,547	3,381	3,461	81	3,388	3,701					
	(1) 料 金 収 入	4,117	3,362	3,283	2,840	2,948	108	2,734	2,966					
	入 院 収 益	2,381	2,214	2,112	1,753	1,843	91	1,755	1,948					
	外 来 収 益	1,736	1,148	1,171	1,087	1,104	17	978	1,018					
	(2) そ の 他	118	245	264	541	514	△ 28	654	735					
	う ち 他 会 計 負 担 金	13	173	174	450	423	△ 27	568	642					
	2. 医業外収益	188	280	285	293	291	△ 1	285	286					
	(1) 他 会 計 負 担 金	85	174	174	169	162	△ 6	164	163					
	(2) 他 会 計 補 助 金	68	73	73	92	99	6	85	84					
	(3) 国 (県) 補 助 金	1		0	1	1		20	23					
(4) そ の 他	35	33	38	31	29	△ 1	15	16						
経 常 収 益 (A)	4,423	3,887	3,831	3,674	3,753	79	3,672	3,986						
支	1. 医業費用 b	4,944	4,493	4,272	4,005	3,894	△ 111	3,828	3,917					
	(1) 職 員 給 与 費 c	2,422	2,420	2,362	2,165	2,139	△ 26	2,006	2,097					
	(2) 材 料 費	1,449	999	847	769	751	△ 18	713	756					
	(3) 経 費	817	832	812	824	751	△ 73	842	876					
	(4) 減 価 償 却 費	244	236	240	243	243	△ 0	254	176					
	(5) そ の 他	12	6	12	5	10	5	12	12					
	2. 医業外費用	277	250	250	219	226	7	201	204					
	(1) 支 払 利 息	168	183	170	146	146	△ 0	150	152					
	(2) そ の 他	108	68	80	73	80	7	51	52					
	経 常 費 用 (B)	5,221	4,743	4,521	4,224	4,120	△ 104	4,028	4,121					
経 常 損 益 (A)-(B) (C)	△ 798	△ 856	△ 690	△ 550	△ 367	183	△ 356	△ 135						
特 別 損 益	1. 特 別 利 益 (D)	1			137	138	0	136	136					
	2. 特 別 損 失 (E)	1	1	2	2	3	1	2	2					
	特 別 損 益 (D)-(E) (F)	△ 0	△ 1	△ 2	135	134	△ 1	134	135					
純 損 益 (C)+(F)	△ 798	△ 857	△ 692	△ 415	△ 233	182	△ 222	△ 0						
累 積 欠 損 金 (G)	5,515	6,373	6,207	6,622	6,440	△ 182	6,844	6,844						
医 業 収 支 比 率 $\frac{a}{b} \times 100$	85.7	80.3	83.0	84.4	88.9	4.5	88.5	94.5						

(注)・四捨五入により百万円単位で表示しているため、計数が符合しない場合がある。
 ・平成21年度見込額は、地方公営企業決算状況調査が未確定のため、数値が変動する場合がある。
 ・平成21年度見込額で医業費用の職員給与費と経費の間で応援医師報酬等を調整しているため、地方公営企業決算状況調査と一致しない場合がある。
 ・本局経費を病床数で案分した額を加算している。

資本的収支

(単位:百万円、%)

区分	年度	H19年度			H20年度			H21年度			H22年度		H23年度	
		決算額	計画額	決算額	計画額	決算見込額	差引	計画額	計画額					
収	1. 企 業 債		1,019	1,034	24	21	△ 3	488						
	2. 他 会 計 出 資 金	270	190	237	414	388	△ 25	391	185					
	3. 他 会 計 負 担 金	3	17	17	37	37		28	33					
	4. 他 会 計 借 入 金													
	5. 他 会 計 補 助 金					1	1							
	6. 国 (県) 補 助 金				31	2	△ 28	312	407					
	7. 工 事 負 担 金													
	8. 固 定 資 産 売 却 代 金													
	9. そ の 他	1		1		0	0							
	収 入 計 (a)	274	1,226	1,289	505	450	△ 55	1,220	625					
う ち 翌 年 度 へ 繰 り 越 さ れ る 支 出 の 財 源 充 当 額 (b)														
前 年 度 同 意 等 償 で 当 年 度 借 入 分 (c)														
純 計 (a)-[(b)+(c)] (A)	274	1,226	1,289	505	450	△ 55	1,220	625						
支 出	1. 建 設 改 良 費	85		48	285	230	△ 55	1,005	407					
	2. 企 業 債 償 還 金	182	262	262	318	318	0	322	322					
	3. 他 会 計 長 期 借 入 金 返 還 金													
	4. そ の 他	3	17	17	37	37		28	33					
支 出 計 (B)	271	279	327	640	585	△ 55	1,355	762						
差 引 不 足 額 (B)-(A) (C)	△ 3	△ 947	△ 962	135	135	0	136	136						
補 て ん 財 源	1. 損 益 勘 定 留 保 資 金											136		
	2. 利 益 剰 余 金 処 分 額													
	3. 繰 越 工 事 資 金													
	4. そ の 他		0		135	135	0	136						
計 (D)		0		135	135	0	136	136						
補 て ん 財 源 不 足 額 (C)-(D) (E)	△ 3	△ 947	△ 962											
当 年 度 許 可 債 で 未 借 入 又 は 未 発 行 の 額 (F)														
実 質 財 源 不 足 額 (E)-(F)	△ 3	△ 947	△ 962											

(注)四捨五入により百万円単位で表示しているため、計数が符合しない場合がある。

登米診療所

収益的収支

(単位:百万円、%)

区分	年度	H19年度		H20年度		H21年度			H22年度	H23年度
		決算額	計画額	決算額	計画額	決算見込額	差引	計画額	計画額	
収	1. 医業収益 a	740	369	352	341	346	5	388	215	
	(1) 料金収入	712	366	340	332	333	1	331	171	
	入院収益	337								
	外来収益	375	366	340	332	333	1	331	171	
	(2) その他	28	3	11	9	13	4	57	44	
	うち他会計負担金	4						47	35	
	2. 医業外収益	64	30	30	96	93	△ 2	146	52	
	(1) 他会計負担金	48	24	24	90	83	△ 7	138	45	
	(2) 他会計補助金	15	6	6	6	10	4	6	5	
	(3) 国(県)補助金			0					1	
(4) その他	2	0	0	0	1	0	0	0		
経常収益(A)	804	399	382	437	439	3	534	267		
入	1. 医業費用 b	991	501	476	466	455	△ 11	548	253	
	(1) 職員給与費 c	502	216	214	211	205	△ 6	215	144	
	(2) 材料費	206	162	144	133	128	△ 4	144	18	
	(3) 経費	261	104	99	86	85	△ 1	99	69	
	(4) 減価償却費	21	19	19	28	32	4	21	21	
	(5) その他	2	0	0	7	5	△ 2	69	1	
	2. 医業外費用	22	16	17	12	11	△ 0	8	1	
	(1) 支払利息	5	2	2	0	0		0	0	
	(2) その他	17	15	16	11	11	△ 0	7	1	
	経常費用(B)	1,013	518	494	477	466	△ 11	556	254	
経常損益(A)-(B)(C)	△ 209	△ 119	△ 112	△ 41	△ 27	14	△ 22	13		
特別損益	1. 特別利益(D)									
	2. 特別損失(E)	2	2	0	0	0	△ 0	0	0	
	特別損益(D)-(E)(F)	△ 2	△ 2	△ 0	△ 0	△ 0	0	△ 0	△ 0	
純損益(C)+(F)	△ 211	△ 121	△ 112	△ 41	△ 27	14	△ 22	13		
累積欠損金(G)	999	1,119	1,111	1,152	1,138	△ 14	1,174	1,162		
医業収支比率 $\frac{a}{b} \times 100$	74.7	73.6	73.8	73.2	76.0	2.8	70.7	85.1		

(注)・四捨五入により百万円単位で表示しているため、計数が符合しない場合がある。
 ・平成21年度見込額は、地方公営企業決算状況調査が未確定のため、数値が変動する場合がある。
 ・平成21年度見込額で医業費用の職員給与と経費の間で応援医師報酬等を調整しているため、地方公営企業決算状況調査と一致しない場合がある。

資本的収支

(単位:百万円、%)

区分	年度	H19年度		H20年度		H21年度			H22年度	H23年度
		決算額	計画額	決算額	計画額	決算見込額	差引	計画額	計画額	
収	1. 企業債		19	19						
	2. 他会計出資金	6	6	6	8	24	17	12	6	
	3. 他会計負担金	1								
	4. 他会計借入金									
	5. 他会計補助金									
	6. 国(県)補助金				40	8	△ 32	283		
	7. 工事負担金									
	8. 固定資産売却代金									
	9. その他									
	収入計(a)	7	25	25	48	32	△ 16	294	6	
うち翌年度へ繰り越される支出の財源充当額(b)										
前年度同意等債で当年度借入分(c)										
純計(a)-[(b)+(c)](A)	7	25	25	48	32	△ 16	294	6		
支	1. 建設改良費	1			42	26	△ 16	288		
	2. 企業債償還金	5	25	25	6	6		6	6	
	3. 他会計長期借入金返還金									
	4. その他	1								
支出計(B)	7	25	25	48	32	△ 16	294	6		
差引不足額(B)-(A)(C)			0							
補てん財源	1. 損益勘定留保資金									
	2. 利益剰余金処分額									
	3. 繰越工事資金									
	4. その他		0							
計(D)		0								
補てん財源不足額(C)-(D)(E)										
当年度許可債で未借入又は未発行の額(F)										
実質財源不足額(E)-(F)										

(注)四捨五入により百万円単位で表示しているため、計数が符合しない場合がある。

米谷病院

収益的収支

(単位:百万円、%)

区分	年度	H19年度			H20年度			H21年度			H22年度		H23年度	
		決算額	計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算見込額	差引	計画額	計画額			
収入	1. 医業収益 a	894	902	925	983	1,006	23	1,089	1,001					
	(1) 料金収入	862	861	873	915	926	11	913	891					
	入院収益	305	320	333	355	355	0	363	363					
	外来収益	557	541	541	560	570	11	550	528					
	(2) その他	32	41	51	68	80	12	175	109					
	うち他会計負担金	2	18	18	39	43	5	144	80					
	2. 医業外収益	95	97	98	99	99	△0	338	98					
	(1) 他会計負担金	78	78	78	76	75	△1	314	75					
	(2) 他会計補助金	14	17	17	21	22	1	21	20					
	(3) 国(県)補助金			0										
(4) その他	3	2	3	3	2	△0	2	2						
経常収益(A)	989	999	1,022	1,082	1,104	23	1,426	1,098						
支出	1. 医業費用 b	1,116	1,091	1,078	1,094	1,078	△16	1,448	1,044					
	(1) 職員給与費 c	551	557	560	563	563	△1	581	521					
	(2) 材料費	307	305	291	300	293	△7	300	296					
	(3) 経費	225	197	192	196	189	△8	207	191					
	(4) 減価償却費	31	29	34	34	33	△1	35	35					
	(5) その他	2	1	2	1	1	0	325	2					
	2. 医業外費用	41	36	38	26	25	△1	21	23					
	(1) 支払利息	18	19	17	4	3	△0	5	6					
	(2) その他	23	17	21	22	22	△1	17	17					
	経常費用(B)	1,158	1,127	1,116	1,120	1,103	△17	1,469	1,067					
経常損益(A)-(B)(C)	△169	△127	△94	△38	2	40	△43	31						
特別損益	1. 特別利益(D)				22	22	0	23	30					
	2. 特別損失(E)	1	1	1	1	1	0	1	1					
	特別損益(D)-(E)(F)	△1	△1	△1	21	21	△0	21	28					
純損益(C)+(F)	△170	△129	△95	△17	23	40	△22	59						
累積欠損金(G)	1,064	1,192	1,159	1,176	1,136	△40	1,198	1,139						
医業収支比率 $\frac{a}{b} \times 100$	80.1	82.7	85.8	89.8	93.3	3.5	75.2	95.8						

(注)・四捨五入により百万円単位で表示しているため、計数が符合しない場合がある。
 ・平成21年度見込額は、地方公営企業決算状況調査が未確定のため、数値が変動する場合がある。
 ・平成21年度見込額は医業費用の職員給与費と経費の間で応援医師報酬等を調整しているため、地方公営企業決算状況調査と一致しない場合がある。
 ・本局経費を病床数で案分した額を加算し、上沼診療所の数値を含む。

資本的収支

(単位:百万円、%)

区分	年度	H19年度			H20年度			H21年度			H22年度		H23年度	
		決算額	計画額	決算額	計画額	決算見込額	差引	計画額	計画額					
収入	1. 企業債		328	328				69						
	2. 他会計出資金	68	37	37	75	67	△8	45	45					
	3. 他会計負担金	0	3	3	6	6		5	7					
	4. 他会計借入金													
	5. 他会計補助金													
	6. 国(県)補助金								10					
	7. 工事負担金													
	8. 固定資産売却代金													
	9. その他													
	収入計(a)	68	367	368	81	74	△8	128	52					
支出	うち翌年度へ繰り越される支出の財源充当額(b)													
	前年度同意等償で当年度借入分(c)													
	純計(a)-[(b)+(c)](A)	68	367	368	81	74	△8	128	52					
	1. 建設改良費	31			31	23	△8	79						
	2. 企業債償還金	37	205	205	67	67	△0	67	74					
	3. 他会計長期借入金返還金													
	4. その他	0	3	3	6	6		5	7					
	支出計(B)	68	207	207	104	96	△8	151	81					
	差引不足額(B)-(A)(C)		△160	△160	22	22	△0	23	30					
	補てん財源	1. 損益勘定留保資金												30
2. 利益剰余金処分量														
3. 繰越工事資金														
4. その他			0		22	22	△0	23						
計(D)		0		22	22	△0	23	30						
補てん財源不足額(C)-(D)(E)		△160	△160											
当年度許可債で未借入又は未発行の額(F)														
実質財源不足額(E)-(F)		△160	△160											

(注)四捨五入により百万円単位で表示しているため、計数が符合しない場合がある。

収益的収支

(単位:百万円、%)

区分	年度	H19年度			H20年度			H21年度			H22年度		H23年度	
		決算額	計画額	決算額	計画額	決算見込額	差引	計画額	計画額					
収入	1. 医業収益 a	1,457	1,193	1,138	1,191	1,229	38	1,266	1,348					
	(1) 料 金 収 入	1,412	1,140	1,074	1,106	1,140	33	1,152	1,218					
	入 院 収 益	666	655	585	601	627	26	618	669					
	外 来 収 益	746	485	489	505	512	7	534	550					
	(2) そ の 他	46	53	64	84	89	5	114	129					
	う ち 他 会 計 負 担 金	4	19	19	41	44	3	71	85					
	2. 医業外収益	61	76	75	171	171	△ 0	168	167					
	(1) 他 会 計 負 担 金	32	49	49	135	132	△ 2	132	130					
	(2) 他 会 計 補 助 金	20	20	20	31	33	2	31	31					
	(3) 国 (県) 補 助 金	1												
(4) そ の 他	8	7	6	5	5	△ 0	5	5						
経 常 収 益 (A)	1,519	1,269	1,213	1,361	1,399	38	1,434	1,515						
支出	1. 医業費用 b	1,590	1,388	1,350	1,338	1,327	△ 11	1,368	1,393					
	(1) 職 員 給 与 費 c	802	828	837	854	857	3	861	874					
	(2) 材 料 費	429	182	167	158	153	△ 5	161	171					
	(3) 経 費	273	300	270	257	245	△ 11	272	276					
	(4) 減 価 償 却 費	82	72	73	67	66	△ 0	70	69					
	(5) そ の 他	4	4	2	3	6	3	3	3					
	2. 医業外費用	79	67	67	44	45	1	40	41					
	(1) 支 払 利 息	48	53	49	27	27	△ 0	29	29					
	(2) そ の 他	31	14	18	17	18	1	10	11					
	経 常 費 用 (B)	1,670	1,455	1,416	1,382	1,372	△ 10	1,408	1,434					
経 常 損 益 (A)-(B) (C)	△ 151	△ 186	△ 204	△ 21	27	48	26	80						
特別損益	1. 特 別 利 益 (D)				45	45	0	45	61					
	2. 特 別 損 失 (E)	0	0	0	0	0	0	0	0					
	特 別 損 益 (D)-(E) (F)	△ 0	△ 0	△ 0	45	45	△ 0	45	61					
純 損 益 (C)+(F)	△ 151	△ 186	△ 204	24	72	48	71	142						
累 積 欠 損 金 (G)	379	565	582	558	510	△ 48	487	345						
医 業 収 支 比 率 $\frac{a}{b} \times 100$	91.6	85.9	84.3	89.0	92.6	3.6	92.6	96.7						

(注)・四捨五入により百万円単位で表示しているため、計数が符合しない場合がある。
 ・平成21年度見込額は、地方公営企業決算状況調査が未確定のため、数値が変動する場合がある。
 ・平成21年度見込額で医業費用の職員給与と経費の間で応援医師報酬等を調整しているため、地方公営企業決算状況調査と一致しない場合がある。
 ・本局経費を病床数で案分した額を加算し、津山診療所の数値を含む。

資本的収支

(単位:百万円、%)

区分	年度	H19年度			H20年度			H21年度			H22年度		H23年度	
		決算額	計画額	決算額	計画額	決算見込額	差引	計画額	計画額					
収入	1. 企 業 債		635	633										
	2. 他 会 計 出 資 金	62	48	48	122	112	△ 10	65	66					
	3. 他 会 計 負 担 金	1	6	6	12	12		9	15					
	4. 他 会 計 借 入 金													
	5. 他 会 計 補 助 金													
	6. 国 (県) 補 助 金							11	44					
	7. 工 事 負 担 金													
	8. 固 定 資 産 売 却 代 金													
	9. そ の 他													
	収 入 計 (a)	63	689	687	135	125	△ 10	85	125					
う ち 翌 年 度 へ 繰 り 越 さ れ る 支 出 の 財 源 充 当 額 (b)														
前 年 度 同 意 等 償 で 当 年 度 借 入 分 (c)														
純 計 (a)-[(b)+(c)] (A)	63	689	687	135	125	△ 10	85	125						
支出	1. 建 設 改 良 費	10		0	61	51	△ 10	11	44					
	2. 企 業 債 償 還 金	52	360	360	106	106		110	127					
	3. 他 会 計 長 期 借 入 金 返 還 金													
	4. そ の 他	1	6	6	12	12		9	15					
支 出 計 (B)	63	366	367	180	170	△ 10	130	186						
差 引 不 足 額 (B)-(A) (C)			△ 323	△ 320	45	45	0	45	61					
補てん財源	1. 損 益 勘 定 留 保 資 金										61			
	2. 利 益 剰 余 金 処 分 額													
	3. 繰 越 工 事 資 金													
	4. そ の 他		0		45	45	0	45						
計 (D)		0		45	45	0	45	61						
補てん財源不足額 (C)-(D) (E)			△ 323	△ 320										
当 年 度 許 可 債 で 未 借 入 又 は 未 発 行 の 額 (F)														
実 質 財 源 不 足 額 (E)-(F)			△ 323	△ 320										

(注)四捨五入により百万円単位で表示しているため、計数が符合しない場合がある。

収益の収支

(単位:百万円、%)

区分	年度	H19年度			H20年度			H21年度			H22年度		H23年度	
		決算額	計画額	決算額	計画額	決算見込額	差引	計画額	計画額					
収入	1. 医業収益 a	793	724	707	674	681	7	807	512					
	(1) 料金収入	774	711	688	659	664	5	753	474					
	入院収益	229	214	193	156	158	1	160	1					
	外来収益	545	497	495	503	506	4	593	473					
	(2) その他	19	13	19	15	17	2	54	38					
	うち他会計負担金	2	3	3	2	2		42	29					
	2. 医業外収益	54	66	66	76	76	0	75	58					
	(1) 他会計負担金	38	49	49	56	55	△ 1	56	46					
	(2) 他会計補助金	13	14	14	17	19	1	17	12					
	(3) 国(県)補助金			0										
(4) その他	3	3	3	3	3	0	3	0						
経常収益(A)	847	790	774	750	757	7	882	570						
支出	1. 医業費用 b	990	988	918	904	897	△ 7	943	543					
	(1) 職員給与費 c	469	486	478	476	468	△ 8	460	230					
	(2) 材料費	262	288	231	229	230	0	271	159					
	(3) 経費	223	181	177	171	171	1	187	133					
	(4) 減価償却費	36	31	31	28	28	△ 0	24	21					
	(5) その他	1	2	1	1	1	0	1	1					
	2. 医業外費用	26	25	25	21	21	△ 0	20	15					
	(1) 支払利息	7	10	7	4	4	△ 0	5	3					
	(2) その他	19	15	18	17	17	△ 0	15	12					
	経常費用(B)	1,017	1,014	943	925	918	△ 7	964	558					
経常損益(A)-(B)(C)	△ 170	△ 224	△ 169	△ 175	△ 160	14	△ 81	12						
特別損益	1. 特別利益(D)				22	22	0	23						
	2. 特別損失(E)	0	0	0	0	0	△ 0	0						
	特別損益(D)-(E)(F)	△ 0	△ 0	△ 0	22	22	0	22	△ 0					
純損益(C)+(F)	△ 170	△ 224	△ 170	△ 153	△ 138	15	△ 59	11						
累積欠損金(G)	777	1,001	947	1,100	1,085	△ 15	1,159	1,147						
医業収支比率 $\frac{a}{b} \times 100$	80.1	73.2	77.0	74.5	75.9	1.3	85.5	94.2						

(注)・四捨五入により百万円単位で表示しているため、計数が符合しない場合がある。
 ・平成21年度見込額は、地方公営企業決算状況調査が未確定のため、数値が変動する場合がある。
 ・平成21年度見込額で医業費用の職員給与費と経費の間で応援医師報酬等を調整しているため、地方公営企業決算状況調査と一致しない場合がある。
 ・本局経費を病床数で案分した額を加算している。

資本的収支

(単位:百万円、%)

区分	年度	H19年度			H20年度			H21年度			H22年度		H23年度	
		決算額	計画額	決算額	計画額	決算見込額	差引	計画額	計画額					
収入	1. 企業債		188	176				40						
	2. 他会計出資金	30	19	19	47	23	△ 24	25	14					
	3. 他会計負担金	1	3	3	6	6		5						
	4. 他会計借入金													
	5. 他会計補助金													
	6. 国(県)補助金							66						
	7. 工事負担金													
	8. 固定資産売却代金													
	9. その他													
	収入計(a)	30	211	198	53	29	△ 24	135	14					
うち翌年度へ繰り越される支出の財源充当額(b)														
前年度同意等債で当年度借入分(c)														
純計(a)-[(b)+(c)](A)	30	211	198	53	29	△ 24	135	14						
支出	1. 建設改良費				31	7	△ 24	117						
	2. 企業債償還金	30	35	35	39	39	△ 0	37	14					
	3. 他会計長期借入金返還金													
	4. その他	1	3	3	6	6		5						
支出計(B)	30	38	37	75	51	△ 24	158	14						
差引不足額(B)-(A)(C)			△ 173	△ 160	22	22	△ 0	23						
補てん財源	1. 損益勘定留保資金													
	2. 利益剰余金処分量													
	3. 繰越工事資金													
	4. その他		0		22	22	△ 0	23						
計(D)		0		22	22	△ 0	23							
補てん財源不足額(C)-(D)(E)			△ 173	△ 160										
当年度許可債で未借入又は未発行の額(F)														
実質財源不足額(E)-(F)			△ 173	△ 160										

(注)四捨五入により百万円単位で表示しているため、計数が符合しない場合がある。

<定員管理に関する計画及び実績>

(計画)

(単位:人)

職 種	平成19年度				平成20年度				平成21年度見込み			
	正規	臨時	非常勤	計	正規	臨時	非常勤	計	正規	臨時	非常勤	計
医師	43		1	44	37			37	38			38
看護師	334		33	367	312		25	337	297		24	321
医療技術職	89	2	1	92	83	1	2	86	86			86
事務職員	71			71	61			61	54			54
その他職員	17	9	75	101	4	11	58	73	3	10	35	48
計	554	11	110	675	497	12	85	594	478	10	59	547

(注) 人数は年度末の見込数

(実績)

職 種	平成20年度末実績				平成21年度末実績			
	正規	臨時	非常勤	計	正規	臨時	非常勤	計
医師	37			37	38			38
看護師	312		25	337	297		24	321
医療技術職	83	1	2	86	86		1	87
事務職員	61			61	54			54
その他職員	4	11	58	73	3	10	33	46
計	497	12	85	594	478	10	58	546

【評価】

数値目標については、病床利用率、患者数で一部未達成となっている部分もあるが、病院事業全体で見れば設定した目標は全て達成されている。また、経営効率化については、平成20年度までの取り組みに加え、日曜診療の実施など新たな取り組みも行われており、少しずつ成果が上がっているように思われる。

しかし、経常収支比率など財務面の数値目標の達成は、一般会計の負担に依存しているところが大きく、一般会計の負担も限界に近いと思われることから、病床利用率や患者数などの目標値をさらに高めるとともに、施設基準の見直しなどを図りながら、経営の効率化に努める必要がある。

【今後改善を望む事項】

病院事業の収支を改善するためには、佐沼病院の医業収益の増加が望まれる。

院外処方については、未実施の病院で実施するとともに、実施済みの病院では院外処方率を高める必要がある。

未収金徴収対策については、取り組みを継続するとともに、なお一層の強化を図り、未収金の減少に努めること。

病院経営に市民の目を向けてもらうという意味でも市民病院モニターの設置が望まれる。

常勤医師の勤務体制に均衡を欠く部分があるので、効率的な病院運営、医師の労働環境の改善という観点からも改善する必要がある。

2. 再編・ネットワーク化

＜取組状況＞ （注：●は平成20年度、○は平成21年度追加）

項目	取組み内容	効果	今後の取り組み・課題等
他の病院、診療所及び介護施設との連携	<ul style="list-style-type: none"> ●病院と開業医等との連携 ●市立病院間の医師の協力体制の構築 ・登米診療所から米谷病院へ週1回の当直 ・登米診療所から豊里病院へ月2回の当直及び週1回の外来診療 ・佐沼病院訪問診療室長と上沼診療所長を兼務 ●医療情報の共有 米谷病院、豊里病院、登米診療所及び上沼診療所において、在宅療養患者の情報を共有している。 ●産科のセミオープンシステムによる助産師外来の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●平成20年度患者紹介率 佐沼病院 17.0% 米谷病院 11.8% 豊里病院 4.6% よねやま 3.9% ○平成21年度患者紹介率 佐沼病院 19.8% 米谷病院 11.4% 豊里病院 5.3% よねやま 3.8% 	<ul style="list-style-type: none"> ●他の医療機関との役割・機能分担による連携強化 ●佐沼病院地域医療連携室の機能充実 ●保健・医療・福祉を連携させた地域医療の充実 ●在宅療養支援診療所と後方支援病院の連携強化による在宅医療の充実 ○地域医療連携センターを整備し、開業医等との連携強化を図る。

【評価】

市立病院の再編については、改革プランに沿って計画通り進められており評価する。

しかし、病院の役割については、機能分担が明確でなく、各病院とも同じような施設基準となっており、全ての病院で10対1の看護基準を目指すのは無理がある。また、市立医療機関相互の連携についても不足していると思われる。

例えば、透析治療については、集約化は評価するが、よねやま病院の医師だけではなく、佐沼病院の専門医も係わるべきである。

訪問看護事業について、佐沼病院に集約する計画であるが、佐沼病院医師の積極的な協力が得られない状況では集約すべきでない。

市内の開業医との関係においても、患者の紹介・逆紹介が少なく連携が不十分である。

【今後改善を望む事項】

ネットワークについては医師会を含め、医療圏ぐるみで協力体制を具体化することが必要であり、地域医療連携センターを早急に整備し、開業医との連携強化を図られたい。

病院の集約化や人件費などの経費削減を中心とした病院機能の縮小型の改善策が最良なのか疑問がある。自治体病院として医療提供体制の充実を追求しながら経営の充実を図っていくことが必要と考える。

佐沼病院については、診療所の後方支援病院として明確に位置付けるべきである。また、豊里病院は佐沼病院の後方支援病院として位置付けるべきである。

医師の勤務体制を柔軟にし、市立病院間で応援できる体制を整えるべきである。

3. 経営形態等の見直し

<取組状況> (注：●は平成20年度、○は平成21年度追加)

項目	取組み内容	効果	今後の取り組み・課題等
経営形態の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ●平成20年4月から地方公営企業法全部適用 ●登米病院の診療所化 	●運営の機動性の向上	○経営形態のあり方懇話会を開催し、平成22年度内に経営形態見直しの検討を進める。
病床数等の検討	<ul style="list-style-type: none"> ●登米病院98床の無床化 ●平成20年9月から佐沼病院で46床休止し254床へ ○平成21年9月から佐沼病院でさらに26床休止し228床へ 	●経費削減による収支の改善	<ul style="list-style-type: none"> ●病院を取り巻く環境の変化により、必要とされる病院の規模や病床数等を検討する。 ○平成22年4月から耐震補強工事のため佐沼病院は196床(本館168、仮設28)で運営。 工事完了後、228床(一般168、回復期リハ30、療養30)で運営予定。 ○平成23年4月よりよねやま病院を5床の有床診療所とし、48床減床。 ○平成23年4月より歯科の民営化(米谷病院、よねやま病院、登米診療所)

【評価】

地方公営企業法全部適用も一部診療所化もそれぞれ有効に機能が発揮しなければ、単に医療の縮小を図ったのみで、地域医療の提供を困難にするのみである。また、地方公営企業法全部適用の効果が見えず、今の経営形態が適当なのか不安がある。

現在、経営形態のあり方懇話会を立ち上げ協議中であるので、経営形態見直しの取り組みについては評価するとともに、その結果を待ちたい。

【今後改善を望む事項】

経営形態のあり方懇話会の結果により、地方公営企業法全部適用の継続または経営形態の見直しが行われることとなるが、いかなる経営形態であってもその機能が最大限発揮できる体制を構築することが必要である。

4. 総合的な所見

(1) 期待される地域医療の役割を果たしているか

石巻や大崎の基幹病院との連携もあり、役割を果たしている部分もあるが、無床化、診療所化等を含めた地域医療の再編により地域住民の不安も散見される。また、市立病院で分娩できないことや高齢化が進み医療の需要が高まってきていることなどにより、市外の医療機関を受診する市民も多く、市立病院として地域医療の役割を十分に果たしているとは言い切れない状況にある。

佐沼病院に回復期リハビリテーション病棟及び療養病棟を設置する計画なので、内科医の充実と在宅医療を担当する医師を育成すべきである。

市民は休日・夜間の一次救急医療の充実や産婦人科、小児科の医師の充足を望んでおり、これらの解決が課題である

(2) 総合的に積極的に経営改善に取り組んでいたか

経営改善に取り組んでいる努力は見られるが、改革プランに盛り込んである全てを改善するまでにはまだまだ時間を要するものと思われる。経費の削減には限界があるので、医業収益を確保する取り組みが必要である。

部門ごとに連絡は取り合っているものと思うが、職員全体が問題点を把握し情報を共有化することが進んでいないように思われるので、全員一丸となり経営改善対策に邁進することを望む。

(3) その他改革プランに対する総合的な所見

市民とのコミュニケーションを図りながら、登米市の保健・福祉と医療機関が一体的なとらえ方で互いに信頼できる運営をしていくことが必要である。また、地域医療の問題点を市民と共有し、市民をも巻き込んだ意識改革が必要と考える。

佐沼病院医師の過重労働、職場環境の劣悪だけが強調されているが、本当にそうなのか他の病院を含めて実態を正確に把握すべきである。また、看護師の接遇の悪さだけが強調されているが、良い面も多くあるので積極的に発信すべきである。

人事に関しては、行政部門との人事交流も必要であるが、病院事業に精通した中堅事務職員の育成が必要であり、短期間での異動は中堅職員の育成にはマイナスである。

登米市立病院等運営協議会委員名簿

(敬称略)

氏 名	所属団体等	備 考
さとう やすひろ 佐藤 安宏	地 域 代 表	会長
とよさわ けいし 豊澤 啓司	地 域 代 表	副会長
やしま のりよし 八嶋 徳吉	登米市医師会	
あんどう よしひこ 安藤 良彦	登米市歯科医師会	
いまがわ ふみひこ 今川 文彦	登米市薬剤師会	
たけだ はつし 武田 初志	地 域 代 表	
かくた のりお 角田 憲雄	地 域 代 表	
こいでいちたろう 小出市太郎	地 域 代 表	
さとう としひこ 佐藤 壽彦	地 域 代 表	
すがわら よしみ 菅原 芳美	地 域 代 表	
さ さ き きくえ 佐々木菊枝	地 域 代 表	
みうら こうめい 三浦 光明	地 域 代 表	
いとう しんじ 伊藤 進二	登米市社会福祉協議会	
さとう けい 佐藤 敬	登米市国民健康保険運営協議会	
さ さ き なおみ 佐々木直美	登米市市民生活部次長	